

SPIJapan2016 「はじめる！」～その力がここにある！～

Agile を活用した ワーキンググループ活動

住友電工情報システム株式会社
QCD改善推進部 品質改善推進グループ 服部 悦子
2016年10月12日

住友電工情報システム株式会社 概要

- 設 立： 1998年10月1日
- 資本金： 4.8億円
 - 住友電気工業株式会社： 60%
 - 住友電装株式会社： 40%
- 従業員： 450名
- 代表取締役社長： 白井 清志
- 事業内容：
 - パッケージソフトウェア（楽々シリーズ）の開発・販売
 - 情報処理システムの開発受託
 - コンピュータ運用業務の受託
 - 情報機器の販売
- URL： <http://www.sei-info.co.jp/>

住友電気工業（親会社）の製品



ワイヤーハーネス



合成ダイヤモンド単結晶 スミクリスタル®



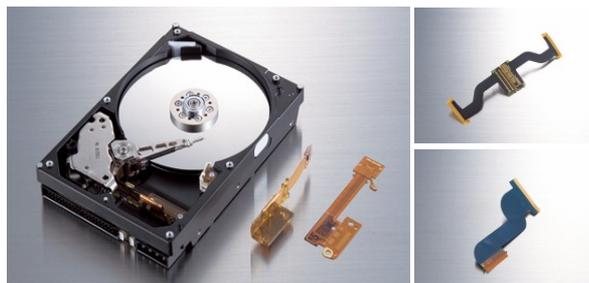
銅荒引線



多心光ファイバケーブル



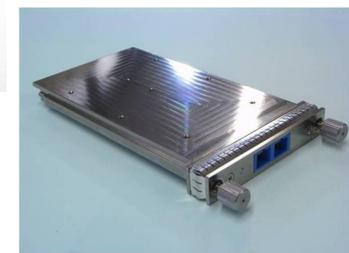
超硬工具 イゲタロイ®



フレキシブルプリント回路

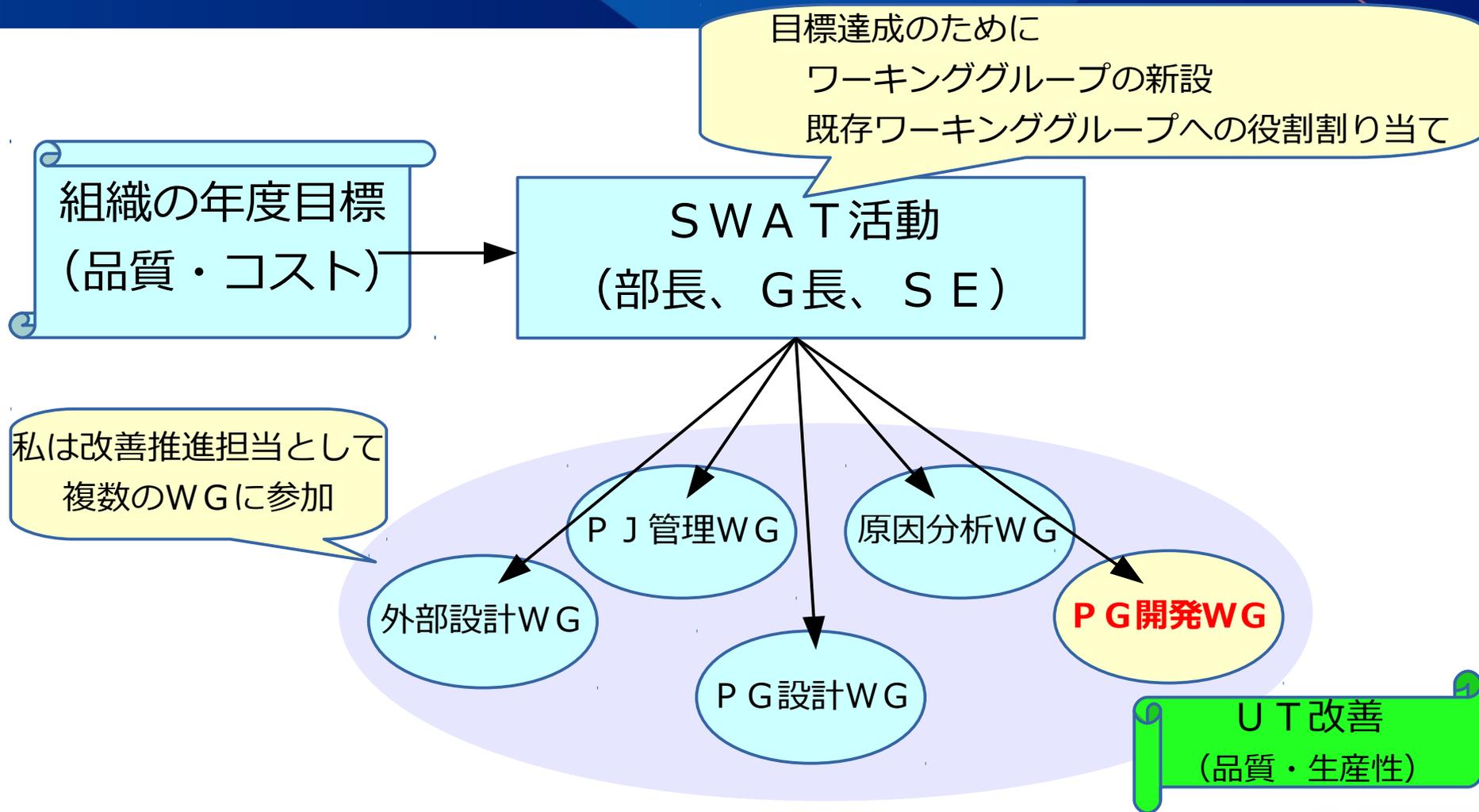


純緑色半導体レーザ



40Gbit/s伝送用光トランシーバ

弊社における改善活動の状況



目次

1. 背景

2. 改善策と効果

3. 成果

- 投入工数の増加と活動の継続
- アウトプットの増加

4. まとめ

5. 参考資料

目次

▶ 1. 背景

2. 改善策と効果

3. 成果

- 投入工数の増加と活動の継続
- アウトプットの増加

4. まとめ

5. 参考資料

PG開発WGの問題

表 参加メンバー1人あたりの活動工数

活動工数	予定工数(/月)	実績工数(/月)
WG(会議)参加時間	8MH (1回2H×4回)	1~6MH
個人ワーク時間	8MH (毎週2MH×4回)	1~2MH

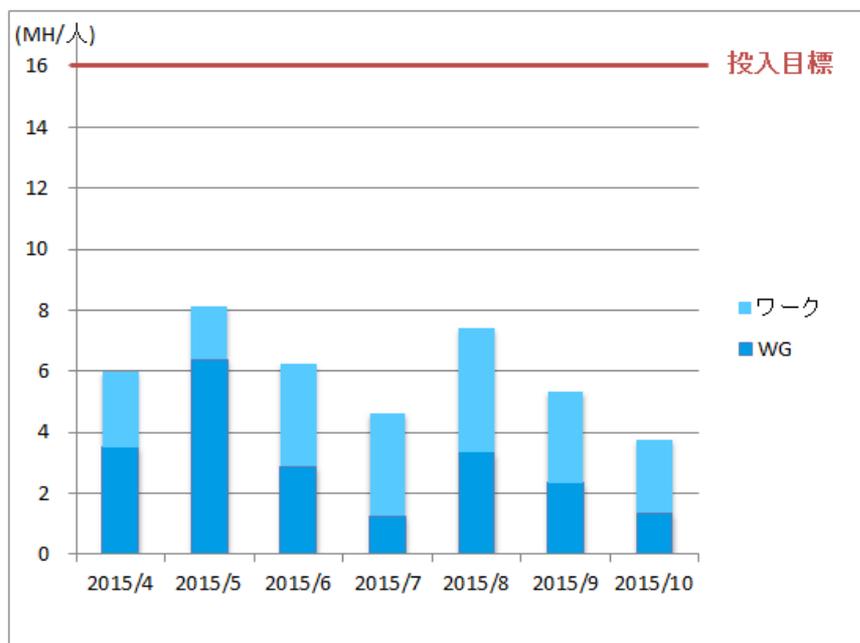
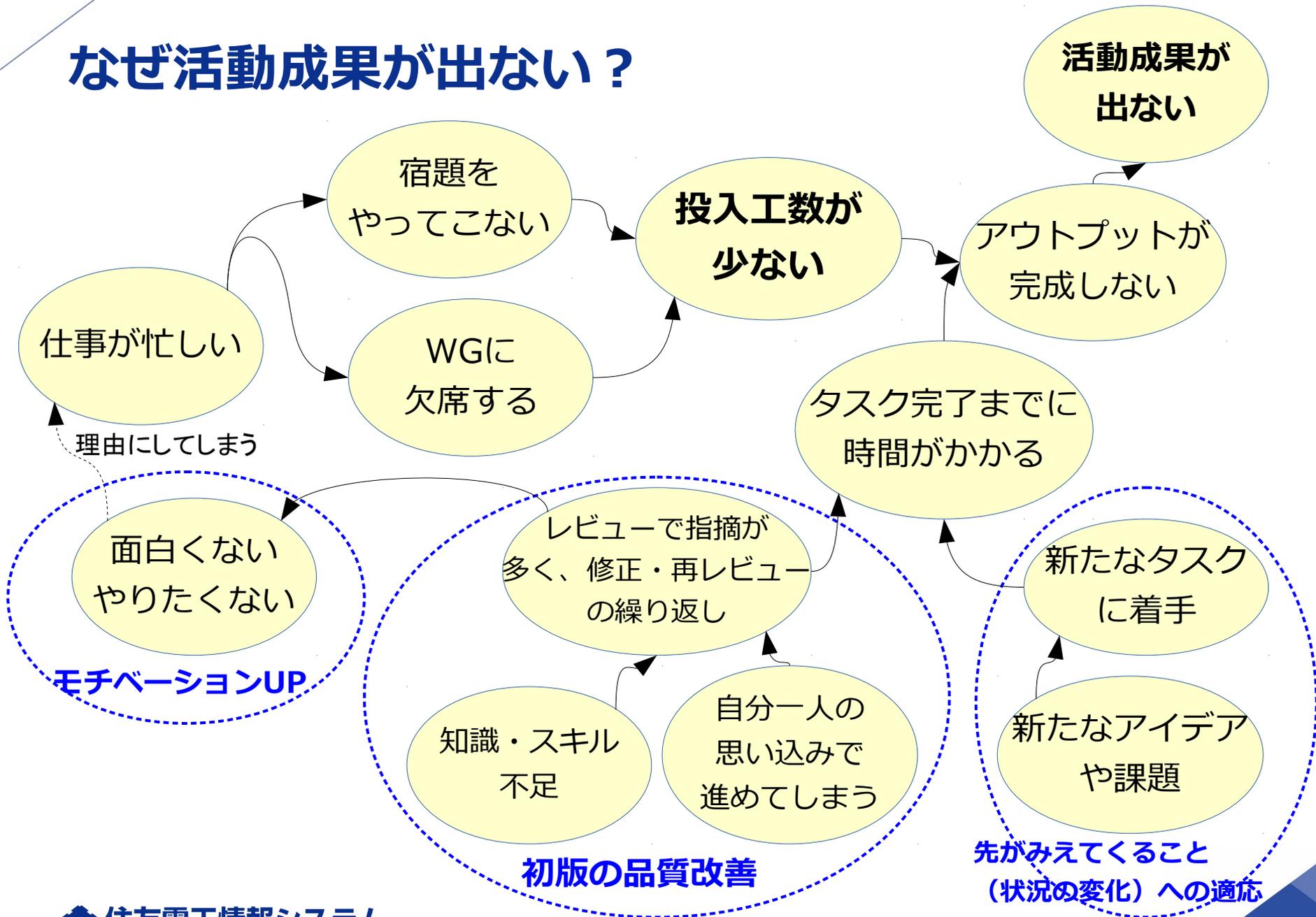


図 参加メンバー1人あたり活動工数(月別推移)

予定の半分も
投入できていない

活動成果も
出ない

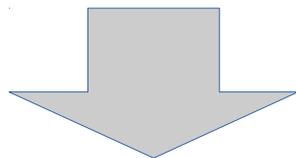
なぜ活動成果が出ない？



改善策の検討

課題

- ・メンバーのモチベーションUP
- ・初版の品質改善
- ・先がみえてくること（状況の変化）への適応



そうだ、**Agile** だ！

Agileがよいと思う理由

理由1 アジャイルソフトウェア開発宣言

(略)

契約交渉よりも顧客との協調を、

計画に従うことよりも**変化への対応**を、

理由2 過去のScrumの試行経験 ※SPIJapan'12で発表

開発者の**モチベーション**向上

開発者の**スキル**向上



目次

1. 背景

▶ 2. 改善策と効果

3. 成果

- 投入工数の増加と活動の継続
- アウトプットの増加

4. まとめ

5. 参考資料

Agileワーキンググループ活動 その1

課題

先が見えてくること（状況の変化）への対応

- 改善活動が進めば理解が進み、新たなアイデアや課題が出てくる
- それらをすぐに着手してしまう

対策

スプリントゴールの設定

- スプリント中は選択したプロダクトバックログの完成に集中
- 新たに見つかった課題はプロダクトバックログに追加（着手しない）
- 成果物をよりよくするアイデアもプロダクトバックログに追加（着手しない）

効果

初めは私が課題として切り出すよう指導していたが
2~3ヶ月後にはメンバー自身で切り分けできるようになった
(バックログ完了率UP)

Agileワーキンググループ活動 その2

課題

メンバーのモチベーションUP

対策

スクラムのプラクティス導入

- 1ヶ月のスプリント（1スプリント=WG4回）
- スプリントゴールをメンバー自身で選択
- スプリントレビューでバックログの完了判定
- レトロスペクティブで進め方をブラッシュアップ



効果

- ・ ゴールが見える化され、完了判定により達成感UP
- ・ レトロスペクティブで各人の課題を共有し解消

Agileワーキンググループ活動 その3

課題

初版の品質改善

- レビューで指摘が多く、修正・再レビューの繰り返し

対策

ペアプログラミングの応用

- 1つのタスクを2~4名のミニチームで担当
- 今月実施するバックログを2~3選び、バックログ毎にミニチームを編成

WGなので
プログラミング
ではありません

効果

チームを進めると、

- ・ チーム内で自分の考えを話すことにより、
作業内容がより具体化される
- ・ 事前レビューが行われる（成果物の品質が向上）
- ・ 実行が強制される

目次

1. 背景

2. 改善策と効果

▶ 3. 成果

- 投入工数の増加と活動の継続
- アウトプットの増加

4. まとめ

5. 参考資料

成果 1 投入工数の増加と活動の継続



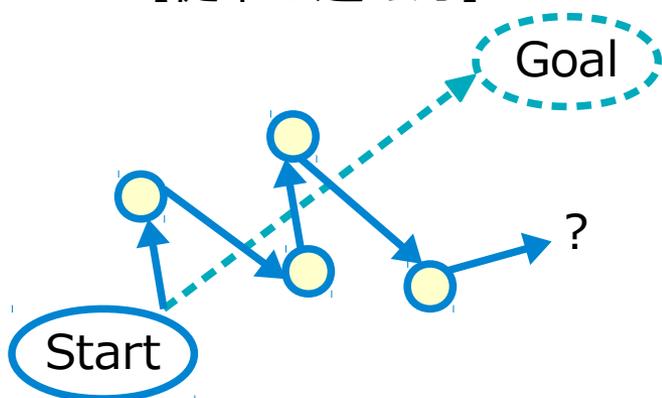
図 WG活動に参加する一人あたりの投入工数(対策後)

成果2 アウトプットの増加

6ヶ月で14件のバックログを完了（月平均2件）

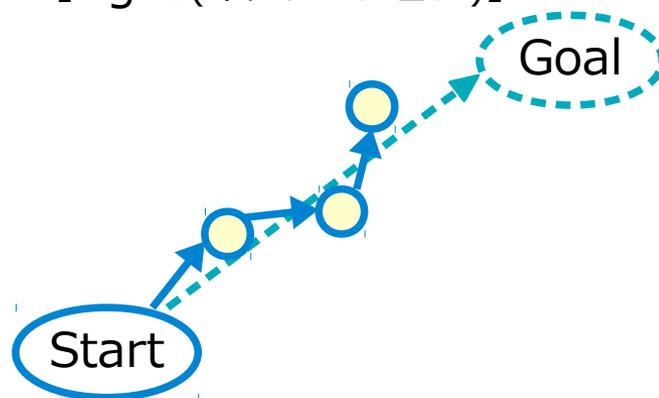
考察 Agileにより優先度の低い課題を切り出せた
進行中に11件の課題を抽出したが、内7件は未着手

【従来の進め方】



進捗に従って気付いたことに取りかかってしまい、ゴールがぶれる（到達が遅れる）

【Agile(イテレーション)】



中間ゴールが設定されるので可能な限り最短距離でゴールに向かう

目次

1. 背景

2. 改善策と効果

3. 成果

- 投入工数の増加と活動の継続
- アウトプットの増加

▶ 4. まとめ

▶ 5. 参考資料

まとめ

ワーキンググループ活動の課題であった

- ・メンバーのモチベーションUP
- ・初版の品質改善
- ・先がみえてくること（状況の変化）への適応

について、Agile を適用することによる効果が確認できた。

今後の課題

■ 終わらなかったバックログ

例. 「業務フローを作成する」

担当者の経験不足からシステムフローになってしまう

→ミニチームに経験のある先輩社員を入れるなど

チーム編成の工夫が必要

■ 中～上級者で構成されている他のワーキンググループ

改善効果を早く確実に出せる活動

参考資料

- ・ アジャイルソフトウェア開発宣言
<http://agilemanifesto.org/iso/ja/manifesto.html>
- ・ SPIJapan 2012 「カイゼンカの育て方 アジャイルの試行」
http://www.jaspic.org/events/sj/spi_japan_2012/

おわり

ご静聴ありがとうございました